

宮崎型太陽熱消毒を実施しましょう



ほとんどの土壌病害虫を死滅させます

施肥、畦たてを事前に行うので定植の時期に余裕がでます

消毒後に土を動かさないで効果安定します

農薬、肥料費を節約でき、環境にやさしい消毒法です

宮崎型太陽熱消毒の手順

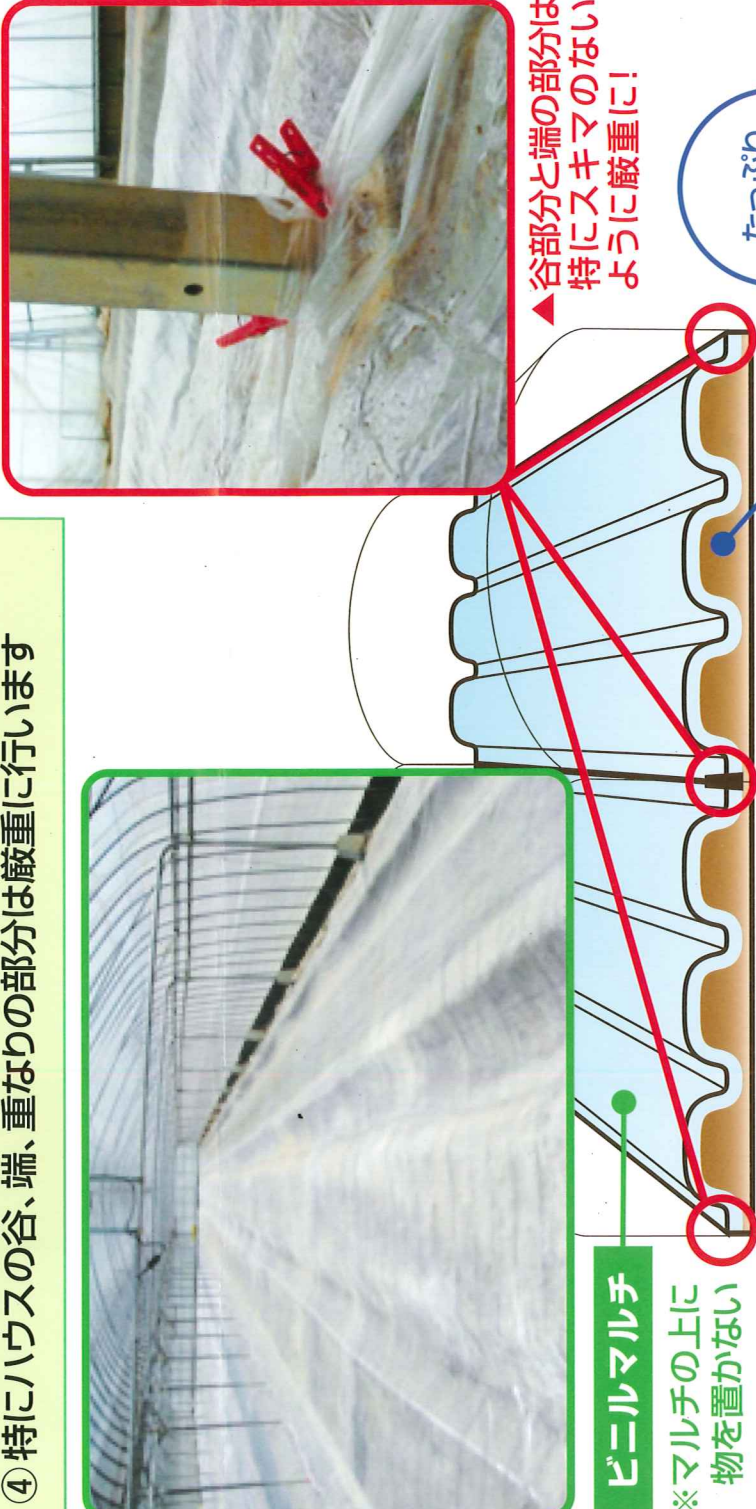


- ① ECの測定を行います
- ② その値を20倍するとおおよその残存している窒素の量になります
- ③ 施肥基準からこの量を差し引いて窒素施用量を決めます

- ① マルチを張る前に十分な散水を行います
- ② 少量で時間をかけ畦芯まで湿らせないと効果がありません(前作のかん水チューブを利用すると楽ですヨ！)
- ③ マルチを張る時にはスキマがないように注意します
- ④ 特にハウスの谷、端、重なりの部分は厳重に行います

基肥の計算例

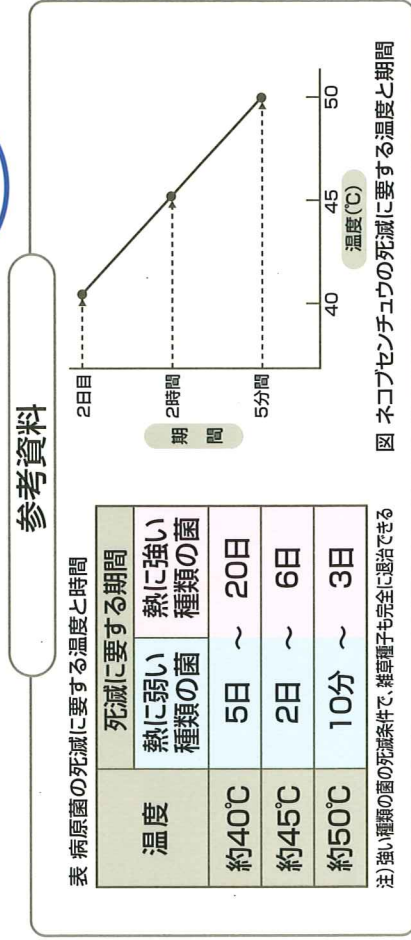
EC測定値=0.5_{ms}
▼20倍します
0.5_{ms}×20=10_{kg}
施肥基準の窒素窒素量が25_{kg}であれば...
25_{kg}÷10_{kg}=15_{kg}
15_{kg}÷25_{kg}×100=60%
施肥基準の6割分を基肥として施用します
※リン、酸、カリについては土壌診断結果を参考に基肥を選定します



連棟ハウスの密閉略図

- ① ビニルを張り替える時もマルチはそのままです
- ② 消毒後は土を動かさないけません

消毒後は硝酸化成菌などの有用な菌も少なくなっています。硝酸化成菌入り資材の散布で速やかな回復をはかります



留意点

- 臭化メチルは2012年末で使用できなくなります
- 大雨・台風時は、水が進入しないように注意する
- 電子機器やプラスチック製品等高温に弱い機材は事前にハウス外に持ち出しておく
- 土壌伝染性ウィルス及び青枯病に対しては効果が劣るので、接ぎ木等と組み合わせて対応する
- 外ビニルを除去する場合、マルチがはげないよう土のう袋等で押さえる
- 薬剤と併用する場合は、使用基準を守り、ハウスの入口に消毒中と提示し危被害防止に努めましょう

(詳しいことは、普及指導員、またはJAの営農指導員に相談してください)